

事業概要書

事業名	旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）から広島県への集団避難者支援およびコミュニティ維持再生支援事業				
事業カテゴリー	復興まちづくり				
開始日	2013年8月1日	終了日	2014年7月31日	日数	365日
団体名	Nina 神石高原（NPO 法人取得中）				
（カウンターパート）	任意団体 相馬救援隊				
スタッフ人数	10人				

CF 事業枠	3,730,000 円
--------	-------------

事業目的	<p>東日本大震災に伴う福島第一原発の事故により、現在も約5万4千人が避難し、全国に離散している状況である。中でも原発に近く放射線量が高い福島県双葉郡の大熊町、双葉町、浪江町などの大半は、長期にわたって帰還が難しい地域とされ、事故後約2年半が経過した今も、住民は帰還できる見込みが薄く、移住によって新たな生活の場を見出さなければならないケースが増えている。本事業は、旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）の住民がコミュニティと文化・伝統を維持したまま、スムーズに広島県神石高原町に移住することを目的とする。また、本事業が全国に離散したコミュニティの再生を促すような成功モデルとなることを目指す。</p>
事業全体の概要	<p>● nina 神石高原 とは</p> <p>行政関係者や地域住民等、意欲のある人材の参画を広く募り、会員の知見、ノウハウをまちづくりの推進、東日本大震災の被災者救援、国際協力、保健・医療又は福祉の増進、環境の保全、社会教育の推進、経済活動の活性化等の活動に活かすため、2013年に設立。また、国、地方自治体や民間事業主体の要請に応じて、地域住民等と連携を図りながら地域が再生し、魅力ある地域となるように調査・研究を行い、実践することを通じて、地域社会の活性化と公益の増進に寄与する事を目的とする。</p> <p>代表者（設立発起人代表）上山実は、神石高原町の前副町長であり現職時は「新しい公共」や「協働の町づくり」を推進してきた。退職後、民間の立場としてその実現を支援している。さらに、神石高原町が気仙沼市の被災者支援を行う際、その実行委員会の代表としてその取り組みをマネジメントした経験を活かし、今回、福島原発被災者の支援を行うことを決意した。</p> <p>● 取り組むべき課題</p> <p>東日本大震災に伴う福島第一原発の事故により、福島県外に避難している約5万4千人のうち、20%未満が親戚や知人等の宅に身を寄せている一方、80%以上が、見知らぬ土地での新生活を送っているという¹。また、震災から半年ごとに行われているアン</p>

¹ 復興庁「震災による避難者の避難場所別人数調査」2013年6月18日発表より

ケート調査によると²、県外移住者のうち 80%が移住の意向を示し、調査の度に移住志向は増えているという。福島第 1 原発事故で避難区域が設定された福島県からの避難者は、20%が「差別された」と感じたことがあり、60%が被ばくによる健康不安を抱えている。また、被災時の住所を離れて移住することについて、「移住を考えている」と回答した数は、震災から半年後の調査では 54%で、1 年後 63%、1 年半後 75%と推移しており、2 年後の調査ではすでに移住した数と移住の意向を示した人は 80%にのぼった。理由（複数回答）は「被ばくが不安」が最多、「帰還の見通しが立たない」が続いている。さらに 18 歳未満の避難者の出身市町村が最も多いのは、南相馬市、福島市、郡山市、浪江町という順になっている³。

避難先では、住居の確保、職探しの困難さだけでなく、子どもの就学、介護や福祉サービスを受けるため等の煩雑な手続きがあり、また、避難先地域での差別などを受けるなど、物理的にも精神的にも厳しい状況が続いている。また、福島県下各地域からの避難者は、地域ごとにまとまって移動しているケースはごく一部であり、多くは住み慣れた地域の習慣やお祭りなどの伝統文化などが継承されることはほとんどないという状況である。避難された人たちが、安心して生活を送ることができるように、避難先の地域コミュニティの理解促進と受け入れ体制や環境の整備、また、元の生活の礎となっていたような生活習慣や文化を継承できるような取組みを併せて実施することで、本事業を通して、全国に離散している同地域の住民を元気づけ、また、今後移住を検討している方々への具体的な選択肢となることを期待している。

●事業策定の経緯

福島第一原発から 30 キロ圏内に含まれる、旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）の地域では、「相馬野馬追」という行事を通じて代々相馬藩を愛する地元民が多い。鎌倉時代から一貫してこの土地の支配者だった相馬の藩主（殿様）は、善政を行う名君と言われ、それを支える幹部家臣の存在があつて、江戸時代を通じて百姓の一揆もなく、まさに徳治の典型であったという定説がある。この旧相馬藩の第 34 代藩主である相馬行胤（そうま・みちたね）氏は、2013 年 3 月、相馬・双葉地域からの避難者が地域のまとまりをできるだけ維持しながら生活を再建することを目指し、自ら先陣として広島県神石郡神石高原町に移住した。同氏は、一日も早く、旧相馬藩の移住希望者や離散した方々が、コミュニティを維持し文化伝統を守りながら、共に安定した生活を送ることができるよう、移住先の神石高原町の町役場、地域の NPO、地域住民と調整を行っている。

本事業は、受入側の神石高原町の NPO、Nina 神石高原が、同氏の活動を全面的にバックアップし、旧相馬藩での住民の移住可能性調査や神石高原町への移住のための説明会を行うと共に、神石高原町での住宅や雇用などに係る環境づくりを行うこととした。

² 毎日新聞社アンケート 2013 年 3 月に実施

³ 福島県子育て支援課調べ（2012 年 12 月 3 日発表資料より）

●パートナー協働プログラム対象事業

- ① 旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）の生活環境調査および住民の移住希望調査

震災後も当該地域に居住している住民の生活環境に関する基礎調査を行う。具体的には、放射線検査や医療サービスの普及状況、福祉、教育など生活に密着している事項に関する実態を自治体や地元 NPO、自治会長などへのヒアリングを行う。また、地域ごとの比較や共通の課題、それぞれの地域での取り組みなどについても調査する。さらに、地域住民に対し、アンケートを実施し、移住希望の実態調査を行う。

- ② 旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）住民対象の神石高原町への移住説明会の開催

① で行ったアンケートをもとに、移住を検討または希望している住民対象の移住先となる広島県神石高原町の説明会を実施する。同町の紹介として、気候等の生活環境や教育、住宅事情、公共サービスなどについての説明、特産物や土地の特徴、住民の気質、また、移住先での職のあっせんの可能性なども含め、参加者と積極的な意見交換の場となるよう、工夫をこらした会合を、事業期間中 4 回（4 箇所）、各 50 名（計 200 名）を対象に実施する。なお、説明会の開催にあたっては、実際に先行して移住している相馬行胤氏が周知に協力し、また、実際の会合にもゲストスピーカーとして登壇する。神石高原町と開催地の行政も後援または共催という形式で、官民一体となつてのイベントとなるよう、調整を行う。また、説明会の後、実際に神石高原町に移住を希望する住民は、希望者登録を行ってもらふ。

- ③ 移住希望者と個別に密接なつながりを構築し、神石高原町での生活面、雇用面、仕事面、就農などの総合調整

② で移住の希望者登録を行った住民対象に対し、個別に面談を行い、実際の移住計画を策定する。主に住居や子どもの教育についての相談、就職・就農の希望をヒアリングする。その上で、神石高原町への下見ツアーを企画し、町内散策や病院、学校、関連施設や町内の観光名所などをめぐり、地域住民との懇談会も開催する。下見ツアーは期間中 2 回、各 10 名の参加を見込んでいる。

一方で神石高原町内の企業等で、受入れ募集の可能性調査を行い、就職希望者とのマッチングを図る。対象企業は 10 社を目標とする。

●期待される効果

福島の被災地からの移住にあたって、元のコミュニティを維持し、かつ文化・習慣を継承できる環境、受入先地域とのスムーズな交流、そして、最も懸念されている住宅や

	<p>仕事（就職）の課題などを、地元の NPO が主体となり官民連携して行うという新しい取り組みは、福島第 1 原子力発電所事故から 2 年半以上が経っても、根本的な解決や補償がなく、不安な生活を余儀なくされている人たちにとって、ひとつの選択肢を与えるものとなる。このような受入先の NPO と行政、福島の住民組織が協力して、積極的な働きかけを行うという事例は、将来の不安を抱えている多くの被災地の住民に希望を与えることになると期待する。</p> <p>●タイムスケジュール（暫定）</p> <p>2013 年</p> <p>8 月：生活環境調査および住民の移住希望調査の為の福島出張（1 回目）</p> <p>10 月：生活環境調査および住民の移住希望調査の為の福島出張（2 回目）</p> <p>11 月：神石高原町への移住説明会の開催（1 回目）</p> <p>1 月：神石高原町への移住説明会の開催（2 回目）</p> <p>2014 年</p> <p>2 月：神石高原町への移住説明会の開催（3 回目）</p> <p>3 月：神石高原町への移住説明会の開催（4 回目）</p> <p>4 月：神石高原町への下見ツアー（1 回目）</p> <p>6 月：神石高原町への下見ツアー（2 回目）</p>
事業内容(事業種別（コンポーネント）ごと)	裨益者（誰が、何人）
<p>① 旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）の生活環境調査および住民の移住希望調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放射線検査や医療サービスの普及状況、福祉、教育など生活に密着している事項に関する実態を自治体や地元 NPO、自治会長などへのヒアリングを行う ・地域ごとの比較や共通の課題、それぞれの地域での取り組みなどに関する調査 ・地域住民対象のアンケートによる移住希望の実態調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧相馬藩地域住民約 137,929 名
<p>② 旧相馬藩（福島県相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町）住民対象の神石高原町への移住説明会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住を検討または希望している住民対象の広島県神石高原町の説明会の開催（事業期間中 4 回（4 箇所）、各 50 名（計 200 名）を対象） ・実際に神石高原町に移住を希望する住民の希望者登録の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧相馬藩地域住民（被災者）50 人×4 回
<p>③ 移住希望者と個別に密接なつながりを構築し、神石高原町での生活面、雇用面、仕事面、就農などの総合調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住の希望者登録者対象の個別に面談会の実施 ・神石高原町への下見ツアーの企画と実施（事業期間中 2 回、各 10 名を想定） ・神石高原町内の事業所等で、受入れ募集の可能性調査と就職希望者とのマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧相馬藩地域住民（被災者）10 人×2 回 ・神石高原町内の企業 10 社